

Profile

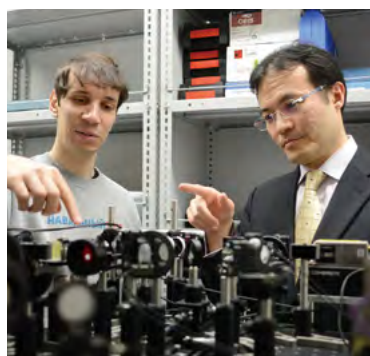
東京都生まれ。2005年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、博士(工学)。東京大学ナノエレクトロニクス連携研究センター特任助教、同学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構特任助教を経て、10年より現職。現在研究室は外国籍の研究者が過半数を占め、日々多様な言語が飛び交っている。



社会的使命感から エネルギーの研究をスタート

東京大学生産技術研究所
マイクロナノ学際研究センター
准教授

野村政宏
Masahiro Nomura



Q 研究テーマを一言でいうと?

A 「熱のマネジメント」。どこにでもある「熱」から「電気」を作り出す。

わずかな熱を集めて電気エネルギーに変換するデバイスを研究しています。例えば、トンネル内の排気ガスの熱を利用して電気を生み出し、センサーで収集した環境情報を定期的に発信するような装置です。

東日本大震災を経験して、研究者には物理的興味だけでなく社会的使命感も大切だとより強く感じ、エネルギーを研究しようと思い立ちました。熱は今世紀の重要テーマになると感じたため、熱からの電気エネルギー創出をテーマに選びました。自分が見いだした物理が原動力となって製品ができ、使用されて人や社会の役に立つことはとてもうれしいことですし、必ず実現したいと思っています。



Q 物理の面白さとは?

A 「世界で最初の人になれる」のが物理学の魅力。

数字が好きで子供でした。2歳の頃、私の好きなものを知るために母親がさまざまな図鑑を買ってくれたのですが、一番興味を示したのが古い電話帳で、びっしりと細かな数字が並んだページを面白そうに読んでいたそうです。算数が好きだったので小学校3年の時には高校の数学まで解いていて、将来は数学者になりたいと思っていました。

その後、自然科学や物理に興味を湧いてきました。大学受験では医者と物理学者の道迷ったのですが、一度きりの人生だからこそ好きなことをやりたいと、物理学の道に進みました。物理の魅力は、世界で初めての現象を発見した人間になれることです。10年くらい前のことですが、ナノ共振レーザーの実現に挑戦をして、世界で初めて発振に成功した時は、思わず歓声を上げてしまいました。あの感動は今でも忘れられません。



Q 人生で大切にしていることは?

A 走ることも研究も、仲間と一緒に取り組んでいく。

中学、高校と陸上部でしたので、走ることは大好きです。留学先のドイツにいた頃、現地のマラソン大会に参加してから日本に寄って、次の週末にはハワイのマラソン大会で走って直後に学会に出席、といったこともありましたが、第2回東京マラソンにも参加しました。人と一緒に何かをするのも好きなので、ランニングクラブの仲間と駅伝に参加することもあります。

走ることで研究でも、人との関わりを大切にしています。共に研究しているスタッフや学生が成長して社会に出て、さらに多くの人を育ててくれることは、社会の大きな財産になると思っています。「世界で最初」を実現する経験と感動を彼らにつなげることも、私の社会的な役目かもしれません。

